

(出展…東大阪大学柏原高等学校二年
六組学級通信「歌多集夢里」No.④①、
No.④②、No.④③FSC)

翔愛祭（東大阪大学・同短期大学部学園祭）10/20

10月20日（日）、東大阪大学・東大阪大学短期大学部の学園祭「翔愛祭」が開催されました。令和元年となる今年のテーマは「**零～zero～ 新たな挑戦**」。ゼロから新しい試みに挑戦する学生たちの気持ちがこめられています。ステージの開幕を彩ったのは学生による弾き語り。美しい旋律と歌声でステージを温めてくれました。続いて、ダンス教室で知り合ったという仲良し3人組が登場。息の合ったキレのあるダンスを披露しました。実は、前日まで降っていた雨でステージが乾いておらず、踊りながらびしょ濡れになってしまったという裏話も。洋楽コピー曲を聞かせてくれたのは、この日が初舞台だという学生バンド。なんと、全員大学生になってから楽器を始めたという初心者！しかしながら、堂々としたステージを魅せてくれました！



模擬店：中央広場では、ステージを見ながら食べることができる「ベビーカースタ」「ポップコーン」「じゃがバター」「フライドポテト」「たこ焼き」などがズラリ。特に、バターの香りが空腹を誘う「じゃがバター」は朝から大人気でした。さらに、ワークセンターつるみの郷「パン工房つばき」は手作りの食パンやコッペパン、「丹波篠山の未来塾」は採れたての枝豆や新鮮な素材を使ったお菓子などを販売していました。



実践食物学科製菓衛生師コース：製菓衛生師コースの学生は岡本先生指導の下、カフェを出店しました。1年生はカボチャやサツマイモなど旬の素材を使ったタルトとマフィン、2年生は生地から手作りした本格的なピザを販売。小さな子ども達もピザとスイーツをどちらもペロリと平らげていました。



東大阪大学附属幼稚園の園児と、敬愛高校の生徒によるステージです。

◎**チアダンス**はボンボンを持った園児たちが、ステージ狭しと元気いっぱいにダンス！可愛いダンスで観客も元気をもらいました。

◎**敬愛高校**からは、**吹奏楽部**と**ダンス部**そして**軽音楽部**の生徒たちが日頃の練習の成果を見せてくれました。吹奏楽部と軽音楽部がそれぞれダンスとコラボレーションすることで、生演奏とダンスの新しいショーになっていました。



丹山ゼミの学生がマリンバ、附属幼稚園の園児がピアノを演奏する、毎年恒例のアンサンブルコンサート。演奏した楽曲は園児たちのリクエストによるもので、学生も園児も演奏を楽しみました。



実践保育学科（お子さまランド）：教室丸ごと全部を使った大きな迷路は圧巻！親御さんも迷ってしまうほどでした。迷路を抜けた先にはわなげ、ボウリング、宝探しなどなど…さまざまな遊びが用意されたワンダーランド。子どもたちはお気に入りのアトラクションを何度も楽しんでいました。



桃愛会：スマートボールはボールを弾いて穴に入れ、タテヨコナメいずれかが揃えば景品をGET！大勢の子どもたちが夢中になって遊んでいました。様々なイラストの描かれたターゲットが用意された**お菓子釣り**は、釣り上げたターゲットの中に収められた星の数で景品が決まるゲーム。釣っているときは何が当たるかわからないのでワクワクも2倍！そして、お祭りの定番**スーパーボールすくい**！なかなかうまく釣れなくても大丈夫。楽しんだ後はお土産としてスーパーボールを買えたので、学内にはスーパーボールで遊ぶ子どもたちの姿がたくさん見られました。**桃愛会**はバザーと手作り遊びのコーナーを展開。手作りのアクリルタワシと小物入れは、なんと午前中に完売するほどの大人気でした！手作り遊びではクリスマスカードとツリーのオーナメント、手編みでチャームやカゴを作成。作り方を教えてもらった子どもたちは、器用に作品を完成させていました。



◎今年初の試みの1つ「**プチピング**」！オモチャやぬいぐるみなど、小さなお子様も当たって嬉しい景品を用意しました。子ども達がたくさん遊びにきてくれる翔愛祭ならではの催しです。目玉商品は子どもたちに人気の変身アイテムでした

◎今年のゲストは関西を拠点に活動するParallel Frank（パラレル フランク）。ジャニーズポップとロックの激しさが融合した楽曲で、ボルテージは最高潮！アツいステージで翔愛祭を盛り上げてくれました。

◎日が傾き始めた午後5時、翔愛祭最大のイベント「**ピング**」が始まりました。多数の華景品が！次々とピングが出る中、大当たりは誰の手に…



バザー（東大阪大学附属幼稚園）開催 11/16

多数の皆様のご来場 有難うございました！



11月16日（土）、東大阪大学附属幼稚園ではバザーが開催されました。開場前より入場を待つ地域の方々の長蛇の列ができました。バザーでは日用品、こども用衣類等をはじめ調理家電、とれたての野菜等、多数の物品販売がありました。また、フランクフルト、焼きそば、焼きいも、トウモロコシ等々、食べ物の販売も行いました。園庭に設置された飲食スペースでは家族で食事しながら休憩する姿も見られました。1階のお部屋でも飲食可能でしたので、たくさんの在園児、卒園児会うことができました。他には、体育館では「千本つり」「コロコロぼーる」「わなげ」等の「ゲームコーナー」、飲み物を販売する「飲み物コーナー」、キーホルダーやヘヤーゴムの工作体験コーナーなどが用意され、大変な賑わいでした。バザー当日は、東大阪大学の学生の皆さんも、後援会の方や教職員とともにボランティアでお手伝いいただき大いに助かりました。

開場を待つ地域の方々の長蛇の列（上）、開場後物品は売コーナーへ急ぐ来場者（下）



大人気の物品販売コーナーの品物（日用品(左上)、家電製品(右上)、こども用の衣類(左)、野菜(下)など）

販売コーナーの物品を目当てに来場される方も……、気に入った商品をGETできましたか？



工作体験コーナーでキーホルダーやヘヤーゴムの制作風景。赤いバンダナは東大阪大学の学生です。



「スーパーボールすくい」で遊ぶ子どもたち
赤いバンダナは、東大阪大学のボランティアの学生



幼稚園の体育館（2階）に設置されたゲームコーナー
左から「千本つり」「わなげ」「コロコロボール」「ボールデボン」の各種ゲーム



敬愛祭（東大阪大学敬愛高等学校文化祭） 11/16.17



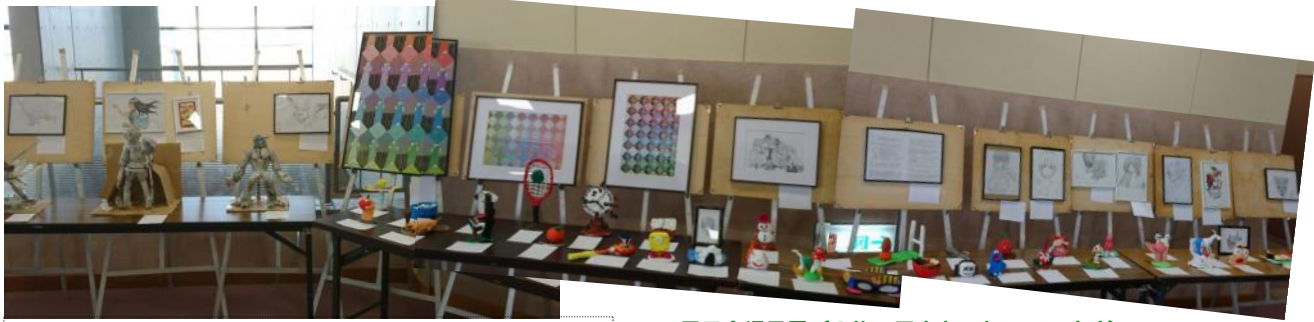
今年の敬愛祭は11月15日から17日までの三日間で行われました！
一日目のK1グランプリでは、多くの有志がさまざまな歌や踊り、演奏を披露しました。

放課後には、前夜祭が行われました。自由参加でしたが多くの生徒が残り、
野外ステージの男女逆転コンテスト、中庭のキャンプファイヤーなど、様々なイベントで大いに盛り上がり
ました。

最後には、カウントダウンとともにイルミネーションの点灯が行われ、
和やかな雰囲気の中、一日目の敬愛祭が終了しました。

柏高祭（東大阪大学柏原高等学校文化祭）11/15.16

展 示



美術関係展示ブース(美術コース、美術部員の作品展示)

展示会場風景（3枚の写真をつないでいます）



鉄道研究サークル（上：三年の作品
下：一年の作品）



理株下：一年の作品



「雄大コーポレーションのコント」(右)
学校長より賞状等の授与(下)↓



柏1グランプリ

優勝者「3ねん6クミ」の漫才(右)
(下) 授与された症状を掲げる2人



柏1グランプリ：漫才やコント、歌などの演芸を競う柏原高校の伝統的イベントです。今年には出演者が少なく6組のエントリーでした。厳正な審査の結果、優勝は漫才の「3ねん6くみ」、準優勝はコント3人組の「雄大コーポレーション」でした。流石何れも3年生。学校長より賞状と商品が……。

模擬店風景



あんしんのたわごと（故岡崎安伸先生のことばより） ～夜間高校生学級・学力保障担当として （生徒とのまなざしの共有を）～

生徒を学習の主体にするとはどういうことなのでしょう。どうすることが主体を育てる指導なのでしょう。私は夜間高校生学級の担当として悩み続けたものでした。

そこで気づいたことに、生徒はモノではなく、まさしく汝（主体）なのだということでした。自由意志を持っている主体なのです。自由意志とは、とりわけ拒否的自由を前提としています。生徒の主体性を大事にするということは、まず拒否する自由を持つ存在として生徒を認めることだと思つたようになりました。

生徒は「先生の話をしっかりと聞くべきだ」と捉えて授業にのぞむことは、決して生徒の主体性を大事にすることではないと考えざるを得ませんでした。容易に心を開いてくれない拒否の自由を持つ存在として捉えることであります。そういう重たいしんどい存在であると思います。生徒の心をどうして開いていくことができるのか、そういう考えをもって授業に臨むことが私の課題だと考えて、授業実践を心がけたように思います。

心を開いてくれない生徒に強制的でなく、能動的に主体的に何とか心を開かせ授業に参加させるか、それは私たち教師としての「ねがい」としていろいろと絶えざる働きかけの中、学習主体を育てる秘訣があると信じています。

荒れる生徒、荒れない生徒、いじめめるようなことをする生徒、いじめられていられる生徒、勉強できる生徒、そうでないと言われる生徒、良いと言われる生徒、悪いと言われる生徒等々は二つの別々の事がらではないと思うのです。そのように考えてはならないのです。この二つの部分が、一人の生徒の中に二つの部分としてはあるのです。荒れる生徒の中に荒れない部分、「できるようなになりたい」「もう一人の自分になりたい」という部分、荒れない生徒に荒れる部分がある部分、それこそいろんな生徒がいます。（性格・能力の違い）その上限は固定していません。まさに、可能性いっぱいであります。その事実を信じ、その考え方を基にしかかわり続けることだと考えてきました。

そのためには「まなざしの共有」こそ、私は最も大切だと信じてきました。教師は、生徒にからだで語りかけ、生徒たちも目とからだで聴くのであります。

「まなざしの共有」から生徒全員参加の授業（生徒一人ひとりに能力の違いがあっても、授業への参加意欲の違い、差をつくらない）が生まれると信じました。そこから、応答的關係、即ち活気のある授業の展開がつくれるということをつたない私の実践経験（夜間高校生学級担任）から信じ思っています。

生徒と真正面から対面すること

1. からだで語りかけること
2. かかわりを評価すること
3. 問いかけによって対立分化をつくること
4. 正しい答えを揺さぶることによって根拠づけを求めること（確かめる）
5. つまずきを拾うことで思考を発展させること

私は、過去夜間高校生学級・学力保障担当として、少しでも学力を生徒の身に付けたいと思い、悩み苦しみました一端を申しました。容易なことでは私の指導など受け入れようという生徒でしたが、私もこの生徒たちとの授業（戦い）で勝ちたいと思い頑張ったのです。

「先公、先公」呼ばわりが、「先」になり、何人かは「先生」と言ってくれ、最後の時、多くの生徒たちが「『先』は信用できる」と言ってくれたことを思い出します。

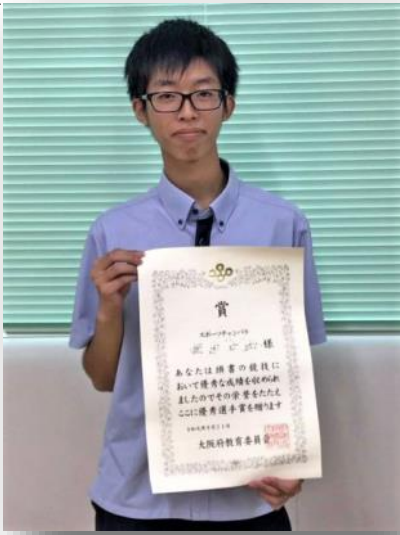
（注）岡崎安伸先生…東大阪立小学校校長を定年退職後、村上学園に奉職。東大阪大学附属幼稚園長、副学長、理事、理事として村上学園の要職を長年にわたり務められ、学園経営の補佐的役割を担われました。この間、ご自分の経験を踏まえ表題のような文書とともに指導いただきました。

平成二八年（二月）逝去・享年八九歳

今号の「あの人の人」欄は、秋に表彰を受けた学生・生徒を取り上げました。一人は短大部の留学生イで、留学する自分に作ってくれた母親の料理のことを書いたエッセイに対する受賞、後一人は東大阪大柏原高等学校スポチャン部に所属する生徒の活躍に対する表彰です。受賞された二人の今後の活躍を期待します。おめでとうございます。

「あの人の人」②

「優秀選手賞（大阪府教育委員会）」受賞
「体育・スポーツ奨励賞（柏原市教育委員会）」受賞
東大阪大学柏原高等学校キャリアアップコース2年
櫻井 大輝さん（スポーツチャンバラ部）



「優秀選手賞（大阪府教育委員会）」「体育・スポーツ奨励賞（柏原市教育委員会）」受賞した
櫻井 大輝さん

去る令和元年九月二日、大阪府教育委員会より、スポーツチャンバラにおいて素晴らしい成績を収めているので優秀選手賞を、一月三日(文化の日)には、地元柏原市教育委員会より「体育・スポーツ奨励賞」を授与されました。

櫻井くんは全国大会上位入賞の常連であるだけでなく全国制覇を何度も経験し、世界大会にも出場するなど、活躍しています。今後の活躍を期待しつつ、応援しています。

櫻井大樹君の主な戦績

- ◎全国スポーツチャンバラ選手権大会 2019.9.8 初段 小太刀の部 準優勝
- ◎全国少年少女スポーツチャンバラ大会 2019.3.24 初段以上 小太刀の部 優勝
- ◎大阪府民体育大会スポーツチャンバラ少年少女大会 2018.12.16 高校生小太刀の部 第3位
- ◎スポーツチャンバラ世界選手権大会 2018.12.9 楯小太刀 1級の部 優勝 等

スポーツチャンバラとは

子供のころ、「勉強しなさい」といわれても、おかまいなしに神社や野山にでかけ、棒切れを振り回し、とびまわっていました。しかし、今は走り回る空き地さえ見当たりません。そこで遊び場だった境内や野山を学校の体育館やスポーツセンターに移し、スポーツとしてチャンバラを蘇らせたのです。その名も「スポーツチャンバラ（スポチャン）」。

スポチャンの基本理念は、「公平と安全」そして「自由」です。まずは、このことを十分に理解して下さい。

今は、私達の仲間には、高年齢からチビっ子まで、男の人も女の子の人も世界の友だちと楽しく、自由に健康的に汗を流しています。その仲間たちは世界中に広がり、年代を、性別を、そして国境をこえて・・・。

これまでにない大きな広がりを持ったスポチャンを、私達は全く新しい世界スポーツ、世界の仲良しスポーツとして育てて行かなければなりません。それが私の使命でもあるのです。

スポチャンは「制約に囚われない自由な発想による剣術」「剣術を通じた世界人の育成」を目指しています。そのためには、世界の多くの剣友と、公平に、仲良く競い合える土俵作りが先ず必要と考え、あえてこの名前にしました。それはこの名が世界の剣の共通語として親しまれると確信するからです。

スポチャンは「護身道」から発展しました。指導者には「護身道刀法講習会」も実施しています。

(公益社団法人 日本スポーツチャンバラ協会HPより)



スポチャン面

エアースoft剣



小太刀
長剣
杖
棒
槍



東大阪大学短期大学
部実践食物学科二年
蘇鑫さん

「WFPチャリティーエッセイコンテスト2019」において、東大阪大学短期大学部 実践食物学科 栄養士コース(2年次)の蘇鑫(そきん)さんが「18歳以上部門賞」を受賞しました。

「WFPチャリティーエッセイコンテスト2019」のWebサイトに、表彰式の様子が掲載されています。

受賞エッセイの全文が掲載されました。

国連WFPチャリティーエッセイコンテスト2019

「18歳以上部門賞」受賞!!

蘇鑫(そきん)さん

東大阪大学短期大学部実践食物学科栄養士コース2年

受賞作品のタイトルは「日本へ留学する前に食べた親と最後のご飯」(最下段に受賞エッセイ紹介)

日本に留学する前の息子に、一人暮らしでも作れるようにと母が教えてくれた愛情に満ちた料理と、母子の心の交流について綴ったエッセイです。



国連WFP協会顧問三國清三様より

味、塩味、苦味、うま味』の五味があります。それをもクリアしている、お母さんの深い愛情を感じます。彼も母親を身近に感じる事ができ、とても素晴らしい母心に感動しました。』

本エッセイコンテストのテーマは「私のとっておきごはん」

卵とトマトは、世界中どの国でも手に入る食材で、お母さんはそれを知っていてこの食材を選んだと思います。

味には基本味があって、『甘味、酸味、塩味、苦味、うま味』の五味があります。それをもクリアしている、お母さんの深い愛情を感じます。彼も母親を身近に感じる事ができ、とても素晴らしい母心に感動しました。』

『僕も外国生活が長く、よく夜に刺身、みそ汁を一人で作って日本を思い出していました。』

彼も心細い日本での一人暮らし。そして母親から直接教わった、卵とトマトの料理。



ふなっしーとの記念写真

あなたが「こそぞ!」という場面でお母さんはありますか? 印象に残るごはんの思い出や出来事をつづってください。というのがテーマとなっています。

* WFP: World Food Programme (国連世界食糧計画)

国際連合世界食糧計画は、2001年に設立された食糧不足への食糧援助と天災などの被災国に対して緊急援助を施し、経済・社会の開発を促進する国際連合の機関です。

私にとって一番印象に残っているのは日本へ留学する前のごはんです。忘れられないお母さんの顔、そして忘れられないあの味。

私は約三年前から日本で勉強しています。日本に出発する前、今までに無かったくらい多くの料理を作ってくれました。その中で一番印象に残った料理は、卵とトマトの炒め物でした。お母さんはその料理を作っている時に私を呼んで、「ちよつと手伝ってもらってもいい?」と言いました。私とお母さんは無言で料理を作りました。作り終わったとき、お母さんがやっとう口を開きました。「さっきの料理の作り方見た? 覚えてよね」その一瞬、涙が溢れてしまいました。見た目は普通の卵とトマトの炒め物だけど、その中には、私に対するお母さんの愛情が込められていたのです。

～ 蘇鑫さんの受賞エッセイ ～

「日本へ留学する前に食べた親と最後のご飯」

日本には一人で留学するため、ご飯も自分で作らないといけません。お母さんが息子のこれから日本での生活を心配して料理を教えてくれたのでした。たとえ息子が困ったとしても、距離が遠いため、何があってもすぐに手伝えることもできないのです。

食事中、ずっとその卵とトマトの炒め物を食べました。何の味でしょう。少し酸っぱい、少し甘い、少し苦い、その時の私の気持ちのような、今思い出すと、涙が出てきそうです。

日本に来て三年目になり、ようやくお金が貯められるようになって、様々な料理を食べることができるようになりました。しかし、私が大好きな料理は、やはり卵とトマトの炒め物です。作る時は毎回、あの日のお母さんの顔が頭の中に浮かんでいます。まるで、お母さんが隣にいるかのようです。

Murakamigakuen Art Gallery (4)

柏高祭（東大阪大学柏原高等学校文化祭）出展作品より

11月15日・16日の両日行われた「柏高祭」で、美術コース、美術部、授業での作品が展示されていました。オリジナル作品、模写したもの、造形作品等、多数の力作が展示され、参観者の目を引き付けていました。今回は、その中から、オリジナル作品を3点（上段）、イラストの模写作品3点（中段）オリジナル造形作品3点（右下段）を紹介します。



美術コース生のオリジナル作品3点



↑ 10/23に放映された「たむけんの学校へ行こう」でも取り上げられていた美術コース1年生の作品



イラストの模写作品3点



第3号で取り上げたときは2体でしたが、今回は1体増え3体の出展となっています。

敬愛祭（東大阪大学敬愛高等学校文化祭）展示作品より



十一月の・十七日の両日行われた「敬愛祭」で、総合進学コース一年各クラスのモザイクアートが展示されていました。日本が初の「ベスト8」入りを果たしたラグビーワールドカップを題材に製作されました。多くの時間とクラスの仲間の力を結集しての力作ぞういす。

★編集後記
これまで「村上学園NEWS」を4回、横書きで発行してまいりましたが、今号より紙面を縦書きで編集させていただきます。ご了承ください。

さて、教育機関である村上学園は、日々の学業の成果として、一人ひとりの希望する進路を実現することが大きな目的の一つです。今号の1面に取り上げたA君の変容は、①彼自身の頑張り、②当然のことですが、②自分の本音を言える担任教師とA君との信頼関係、③信頼に応えるサポートがあつて、希望する進路の実現に至ったのではないかと考えます。本学園に学ぶ生徒諸君の生き様や指導する教職員の職務遂行の参りにしていただければ幸いです。

(編集者 寺川 誠)



<https://murakamigakuen.jp/> <https://murakamigakuen.jp/>